

《担当者名》花淵馨也 [hanab@hoku-iryo-u.ac.jp]

【概要】

現代という時代を象徴する病気である「認知症」と「うつ病」を対象とした医療人類学の2冊の本、北中淳子著『うつの医療人類学』とM・ミード著『アルツハイマー病の謎－認知症と老化の絡まり合い』を輪読する。これらの病気がいかにして医療という制度により社会的に構築されたのか、どのように社会的・文化的現象として現れ出ているのかといった問いを医療人類学的視点から分析する研究を批判的に読み解くことで、看護や福祉の分野で自明な前提とされる病いや障がいの概念を根本的に疑い、再検討する。

【学修目標】

- ・病いや障がいを社会や文化の文脈において理解するための医療人類学的視点と方法について理解する。
- ・医療や福祉を「人間の生き方」という根本的問題として社会的・文化的文脈において捉えるための広い視野を養う
- ・現代日本の医療や福祉のあり方について相対的、批判的に比較分析し、考察する能力を身につける。

【学修内容】

回	テーマ	授業内容および学修課題	担当者
1	オリエンテーション	授業の目的と内容についてのガイダンス	花淵
2)	『うつの医療人類学』を読む	「うつ」はいかにして社会的に構築され、われわれの社会の仕組みや生き方とどのように関係しているのか？	花淵
3			
4)	『アルツハイマー病の謎』を読む (前半)	「アルツハイマー」はいかに医療化されたのか？	花淵
5			
6)	『アルツハイマー病の謎』を読む (後半)	「アルツハイマー」とどう向き合うのか？	花淵
7			
8	まとめ	授業のふり返り	花淵

【授業実施形態】

面接授業

授業実施形態は、各学部（研究科）、学校の授業実施方針による

【評価方法】

授業における発言（100％）

【教科書】

北中淳子『うつの医療人類学』、日本評論社

M・ミード『アルツハイマー病の謎－認知症と老化の絡まり合い』、名古屋大学出版会

【参考書】

なし

【学修の準備】

担当する部分を読み、レジュメにまとめ、自分の意見を用意してくること（100分）。